

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

# 新しいNEW CROWNの 語彙選定と語彙指導

日 葦 滋 之 (玉川大学)



『中学校学習指導要領解説外国語編』の言語材料の「語、連語及び慣用表現」では、指導する語の総数を「1200 語程度の語」としています。限られた教科書のページ数に、どのような語彙を盛り込み、学習者に語彙の定着を図る工夫をしたらよいかは大きな課題だと思います。まず、28NC の語彙選定がどのように行われたのかを振り返ってみたいと思います。

## 28NC の語彙選定について

教師が学習者に学んでほしいと思う語彙として、①社会で必要とされている基本的な語彙、②実用英語の観点から英語検定試験で求められる語彙、③平成 10 年の学習指導要領の「別表 1」などの語彙、④平成 24 年度版検定教科書で使用されている語彙、⑤学習者がコミュニケーション活動で必要とする語彙、といった観点からコーパスを作成しました。具体的なワードリストや各コーパスは以下の通りです。

① COB5, LDOCE3	COBUILD5 の 3 diamonds の語彙 (654 語) と、話し言葉における使用頻度上位 1000 語
② 英検 コーパス	2009 - 2011 年度の英検 5 級, 4 級, 3 級のコーパスに出現する語彙
③ H10CS	学習指導要領「別表 1」の語。季節, 月, 曜日, 時間, 天気, 数 (序数含む), 家族 (186 語)
④ 教科書 コーパス	H24 年度版検定教科書 6 社に出現する語彙 (listening script 含む)
⑤ 中学生の学習者 コーパス	スキット, 日本紹介, スピーチ, 将来の夢エッセイ, 冬休みの日記からなる学習者コーパスに出現する語彙

28NC では、これらのワードリストとコーパスから、どの分野にも使用される語彙 (range) で、なおかつ使用頻度 (frequency) の高い語彙を教科書で扱うべき 1200 語程度の語彙として選定しています。教科書本文の執筆の際は、この 1200 語を活用して執筆作業を行っています。

## 28NC の語彙構成について

28NC は、連語及び慣用表現を除き、新語は「最重要語」、「重要語」、「話題語」の 3 部から構成されており、上記のワードリストや複数のコーパスをもとに精選された 1200 語は、「最重要語」、「重要語」に分類されています。

**最重要語**は、1200 語のうち、最も活用度の高い 600 語で、教科書の Words 欄に太字で示しています。

**重要語**は、最重要語の次に大切な語です。最重要語と重要語は、生徒が話したり、書いたりすることができることを目標とする語 (発表語彙) で、Words 欄の語彙の横にチェックボックスを付け、覚える語として明示し、学習者の自律的学習に役立つようにしてあります。

**話題語**は、教科書の題材との関連で必要な語で、特定の英文の中で理解することを目標とする語です。例えば、人名・地名などの固有名詞がそれにあたります。生徒が読んだり聞いたりして理解できることを目標とする語 (受容語彙) です。最重要語や重要語のように書いて覚える語彙ではないため、Words 欄の点線の下に書体を変えて示し (century), その意味を付してあります。

## 教科書で語彙指導をどのように行うか

生徒から単語が覚えられない、どうしたら覚えら

れるようになるのかという質問をよく受けます。28NC では語彙の習得がしやすいようにさまざまな工夫をしています。

(1) 語彙をリサイクルし、徐々に増やしていく工夫  
Book 1 Lesson 3 の後の Words & Sounds 3 「1 日の生活」では、get up から go to bed までの語句を学習し、自分の 1 日について話す活動を行います。そして、少しあとの Lesson 6 GET Part 1 の Word Bank 「1 日の活動」では、get to school から feed my cat など学校や放課後の行動を表す語句を扱い、語彙の幅を広げています。Word Bank と連携する Practice の Speak では、この Word Bank に加えて既習の Words & Sounds 3 の語彙も活用し、1 日の生活についてペアで話します。このように 28NC には、語彙を繰り返し使用し、さまざまな活動を通して、語彙の定着を図っていく工夫があります。

## (2) Word Bank と Practice との連携

Word Bank は、カテゴリー別に分類した語句をイラストで提示し、視覚にうったえることによって記憶しやすくしています。また、前述の通り、Practice の活動を行う際に参考となる語句や表現をまとめることで、Practice と連携しながら語彙の定着を図るように工夫されています。

Nation (2001:63) は、語彙習得について、noticing (単語への気づき), retrieval (単語の呼び起こし), creative (generative) use (単語を用いた創造的 (生成的) 使用) という一連の 3 つのステップを踏むことが重要であると述べています。

まず、Word Bank で語彙に注目し、Practice でその語彙を思い起こしながら Speak や Write の活動に活かします。Practice では主に、自分のこと、あるいは友達のことについて話したり、書いたりするため、Word Bank で練習した語彙を創造的に使用する活動に近いと言えます。

## 教科書を後ろから見ることの勧め—付録の活用

教科書を前から順にしか見ていないと、巻末に役立つ便利な情報があることに気づかず、あとで後悔するといったこともあります。ぜひ一度、後ろから

眺めてみませんか。

## (1) いろいろな単語

教科書の巻末付録には、「いろいろな単語」があります。さまざまな語句が意味のカテゴリーでまとめられており、その語句を用いた対話のモデルも提示されています。例えば Book 1 の「施設」では、下記のように対話文に続き、多くの施設に関する語彙が提示されています。

ⓐ A: Where is the aquarium?  
B: It's next to the fire station.

アパート apartment house  
市場 market

全学年で豊富な対話例と語彙が提示されているので、ここを使えば、これまで学習者が直面してきたような英語で言いたいけれど単語を知らないから言えないということはありません。チャットなどの帯活動で繰り返し使用することにより、自己表現の幅を広げます。

## (2) 単語の意味 調べて覚えよう

巻末の「単語の意味」には、語句の「使い分け」のコラムがあり、学習者は類義語の違いを知ることができます。big, large, great の使い分けをはじめとするコラムが Book 1 に 11 個、Book 2, 3 にはそれぞれ 15 個設けられています。コラムを活用することで語の違いを的確に知ることができます。

28NC は、使い込むことでたくさんの語彙のインプットができ、学習者に無理なく語彙が定着していく工夫が随所にされています。28NC が語彙指導に、また学習者の語彙学習に役立つことを願っています。

【参考文献】  
文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』(平成 20 年 9 月) 開隆堂, 2008.  
文部科学省『中学校学習指導要領 (平成 10 年 12 月) 解説—外国語編—』東京書籍, 1999.  
Collins Cobuild English Dictionary for Advanced Learners. 2006. (改訂第 5 版) Harper Collins.  
Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE) Fourth edition. 2003. Longman.  
Nation, I.S.P. 2001. Learning Vocabulary in Another Language. Cambridge University Press, Cambridge.

NEGIISHI MASASHI  
TAJIMA OSAMU  
HIDAI SHIGEYUKI  
MATSUZAWA SHINJI  
SUZUKI SATORU  
KENO OSAMU  
KUDO YOJI  
IMAJI HIROYUKI  
SAKAI HIDEKI  
TANABE YUJI  
TAJIMA MITSUKO